

「こどもまんなか熊本」の実現に向けた
こども・子育てに関する
県民アンケート調査

〈社会人〉

県民アンケートの概要について

1 趣旨

- 令和4年の出生数は前年比5.1%減の79万9728人で、統計開始以来、初の80万人割れとなった（厚生労働省人口動態統計）。
- 本県においても、令和4年の出生数は、11,875人であり、20年前と比較すると約30パーセント減少し、少子化傾向に歯止めがかからない状況が続いており、今後さまざまな施策を講じていく必要性が高まっている。
- そこでまず、広く県民の子育て環境や意識の実態や、若年層が熊本に定着するために必要なもの等を把握し、各世代、未婚・既婚者、地域毎の実情にあった効果的な政策を立案するための基礎データとなる県民アンケート調査を実施した。

2 対象者

- 学生・生徒（中学生以上）
- 社会人

3 実施方法

- Webアンケート調査

4 調査期間

- 令和5年6月5日（月）～7月7日（金）

5 回答者数

- 12,408人


→内訳

【社会人】8,556人、【学生・生徒】3,852人

【回答期限 延長】
令和5年
7月7日(金)
まで

アンケートへの ご協力をお願い

「こどもまんなか熊本」の実現に向けた
こども・子育てに関する県民アンケート調査
に御協力をお願いいたします！



この度、熊本県子ども未来課では、熊本県の少子化対策の一環として、「こどもまんなか熊本」(*)の実現に向けたこども・子育てに関する県民アンケート調査を実施します。
皆様のご回答を、今後のより良い結婚・子育て環境づくりに役立てます。
ぜひとも皆様の声をお聞かせください。

※「こどもまんなか熊本」とは、あらゆる立場の個人や組織、コミュニティ等が、こどもや若者・子育て世代の視点に立ち、その最善の利益を第一に考えながら様々な取組みを実施する社会

【回答方法等】

①対象者

熊本県内在住の若者、子育て世代

(※学生・生徒、未婚の方、既婚の方、子育て中の方、こどもをお持ちでない方も対象となります)

②回答方法

下記URLもしくはQRコードからご回答ください。

(1)回答URL

<https://zfrmz.jp/hHKj96RenFDSWG64jRyt>

(2)回答QRコード

(社会人用)

(学生・生徒用)

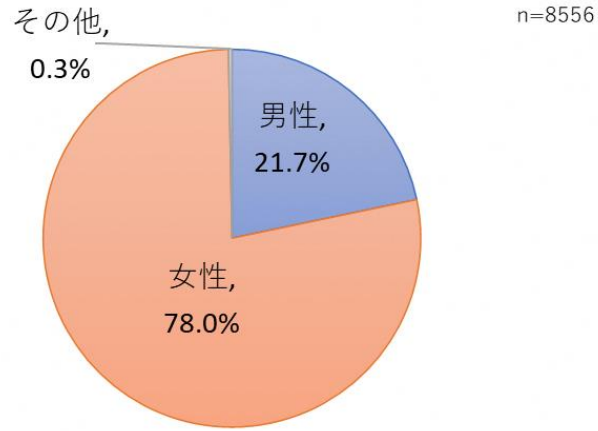


③回答期限 令和5年7月7日(金)まで

※5分～10分程度で終わります
※氏名や住所など個人が特定される内容はありません

県民アンケートの概要について

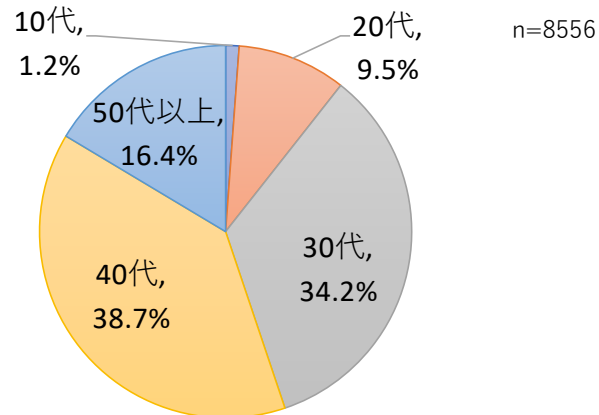
Q性別



Q1-1 Q. あなたの性別は、次のうちどれですか？

		度数	%	有効%
有効	男性	1859	21.7%	21.7%
	女性	6672	78.0%	78.0%
	その他	25	0.3%	0.3%
	合計	8556	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		8556	100.00%	

Q年齢(年代)

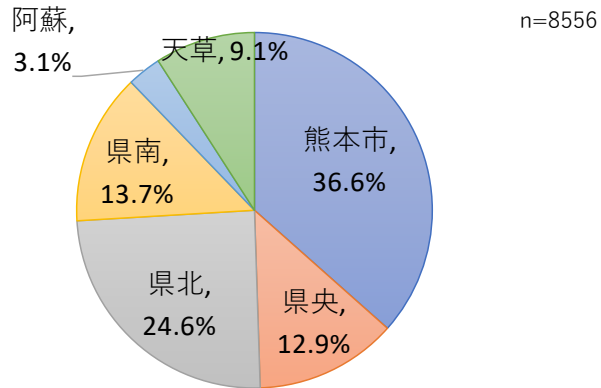


Q1-2 Q. あなたの年齢（年代）は、次のうちどれですか？

		度数	%	有効%
有効	10代	100	1.2%	1.2%
	20代	809	9.5%	9.5%
	30代	2927	34.2%	34.2%
	40代	3315	38.7%	38.7%
	50代以上	1405	16.4%	16.4%
	合計	8556	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		8556	100.00%	

県民アンケートの概要について

Q居住地



Q1-4 Q. あなたの居住地域は、次のうちどれですか？

		度数	%	有効%
有効	熊本市	3128	36.6%	36.6%
	県央	1106	12.9%	12.9%
	県北	2102	24.6%	24.6%
	県南	1176	13.7%	13.7%
	阿蘇	265	3.1%	3.1%
	天草	779	9.1%	9.1%
	合計	8556	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		8556	100.00%	

※県央（宇土市 / 宇城市 / 下益城郡 / 上益城郡）

※県北（荒尾市 / 玉名市 / 玉名郡 / 山鹿市 / 菊池市 / 合志市 / 菊池郡）

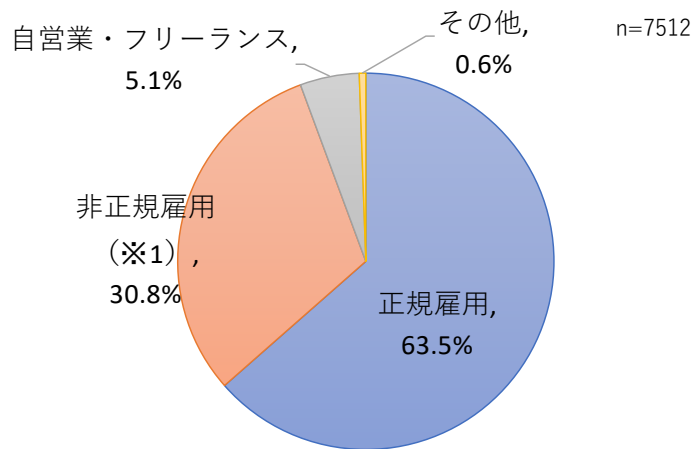
※県南（八代市 / 八代郡 / 水俣市 / 葦北郡 / 人吉市 / 球磨郡）

※阿蘇（阿蘇市 / 阿蘇郡）

※天草（天草市 / 上天草市 / 天草郡）

※有効回答数は、各圏域（県北、県南、県央、天草、阿蘇）の人口比にほぼ等しくなった

Q働き方



Q1-5-3 Q. あなたの働き方は、次のうちどれですか？

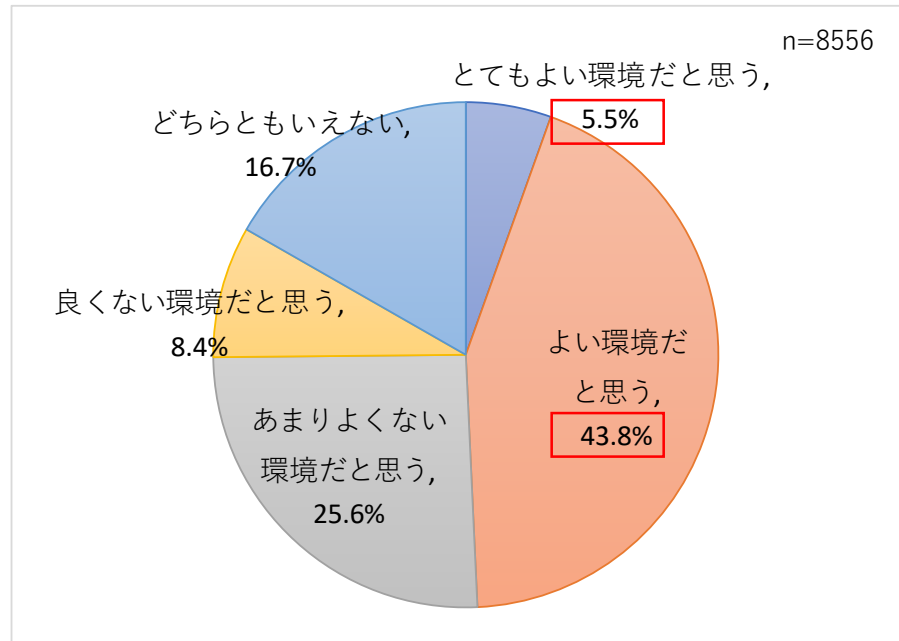
		度数	%	有効%
有効	正規雇用	4772	55.8%	63.5%
	非正規雇用 (※1)	2316	27.1%	30.8%
	自営業・フリーランス	382	4.5%	5.1%
	その他	42	0.5%	0.6%
	合計	7512	87.8%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
	非該当	1044	12.2%	
合計		8556	100.00%	

※1 契約社員、嘱託社員、派遣労働、パートタイム、アルバイトなど

県民アンケートの概要について

Q熊本で働き生活していく環境は、県外(大都市圏)と比べた場合、次のどれだと思いますか

- 熊本で働き生活していく環境について、県外(大都市圏)と比べどうかを尋ねたところ、「とてもよい環境だと思う」「よい環境だと思う」と回答したのが全体の半数近くの49.3%であった。

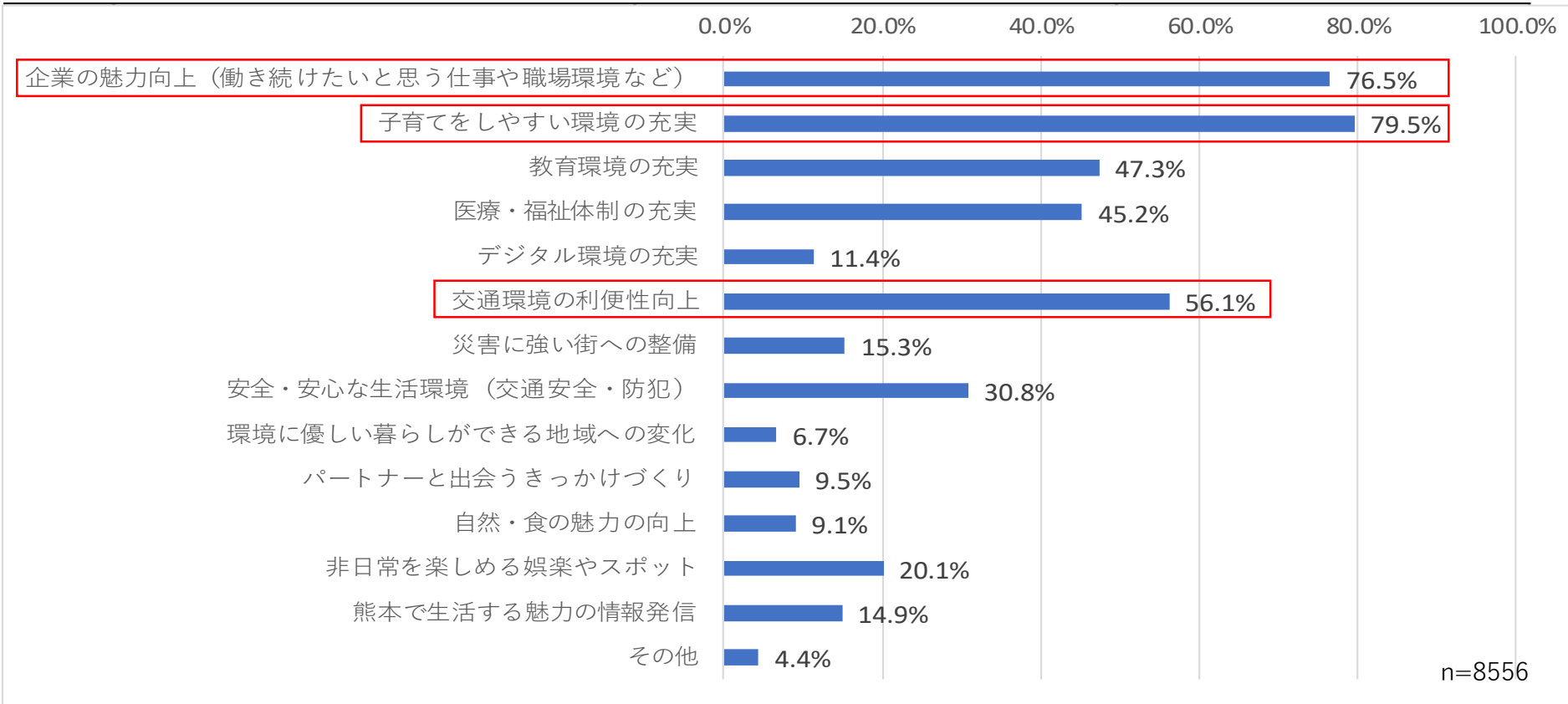


		度数	%	有効%
有効	とてもよい環境だと思う	468	5.5%	5.5%
	よい環境だと思う	3747	43.8%	43.8%
	あまりよくない環境だと思う	2189	25.6%	25.6%
	良くない環境だと思う	720	8.4%	8.4%
	どちらともいえない	1432	16.7%	16.7%
	合計	8556	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		8556	100.00%	

県民アンケートの概要について

Q若年層が熊本に定着するために充実させるべきもの※最大5つ選択可

- 若年層が熊本に定着するために充実させるべきものについて複数回答で尋ねたところ、最も多かったのは「子育てしやすい環境の充実」で79.5%、次いで「企業の魅力向上(働き続けたいと思う仕事や職場環境など)」と回答したのが76.5%となった。
- また、「交通環境の利便性向上」の回答も比較的多く56.1%となっている。

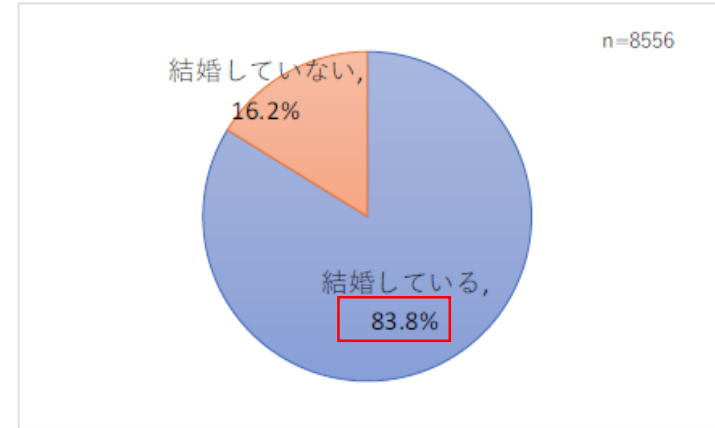


県民アンケートの概要について

- 回答者の既婚・未婚について、「結婚している」が83.8%で、配偶者・パートナーの働き方では「共働き(育休・休職・パートアルバイト含む)」が83.9%である。

Qあなたは現在結婚していますか

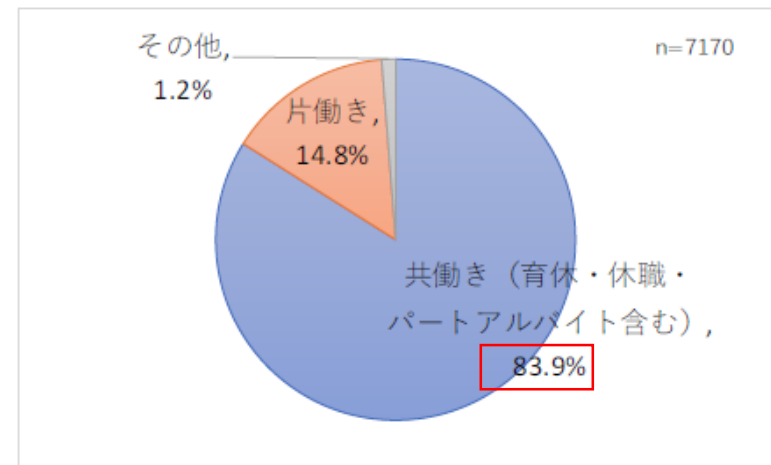
		度数	%	有効%
有効	結婚している	7170	83.8%	83.8%
	結婚していない	1386	16.2%	16.2%
	合計	8556	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
合計		8556	100.00%	



図表1-12 既婚・未婚 (社会人)

Qあなたとあなたの配偶者・パートナーの働き方は、次のうちどれですか

		度数	%	有効%
有効	共働き(育休・休職・パートアルバイト含む)	6017	70.3%	83.9%
	片働き	1064	12.4%	14.8%
	その他	89	1.0%	1.2%
	合計	7170	83.8%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
	非該当	1386	16.2%	
合計		8556	100.00%	

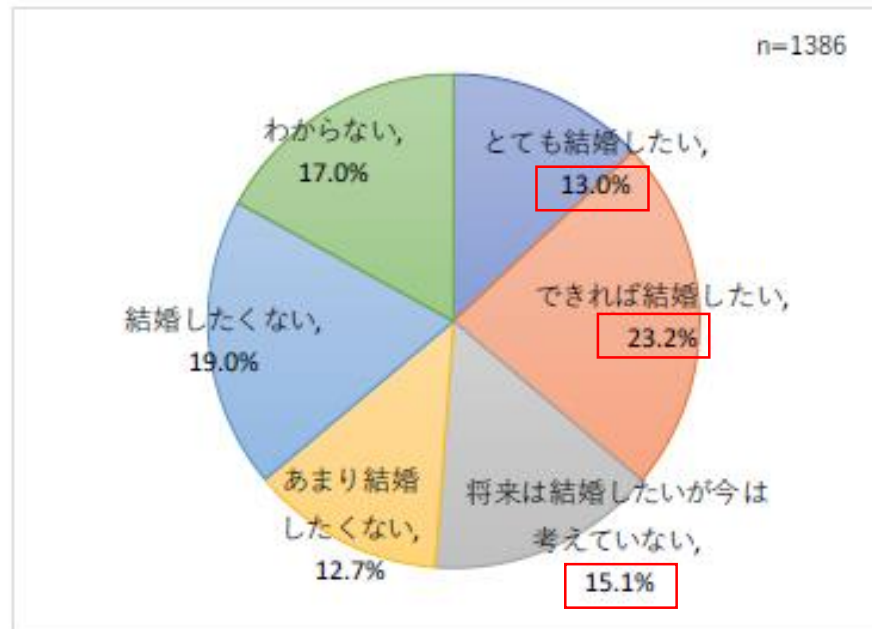


図表1-13 配偶者・パートナーの働き方

県民アンケートの概要について

- 未婚の回答者の結婚への希望を尋ねると、「とても結婚したい」「できれば結婚したい」「将来は結婚したいが今は考えていない」の結婚の意思がある合計が51.3%であった。

Q(未婚の方に)あなたは、結婚したいですか。

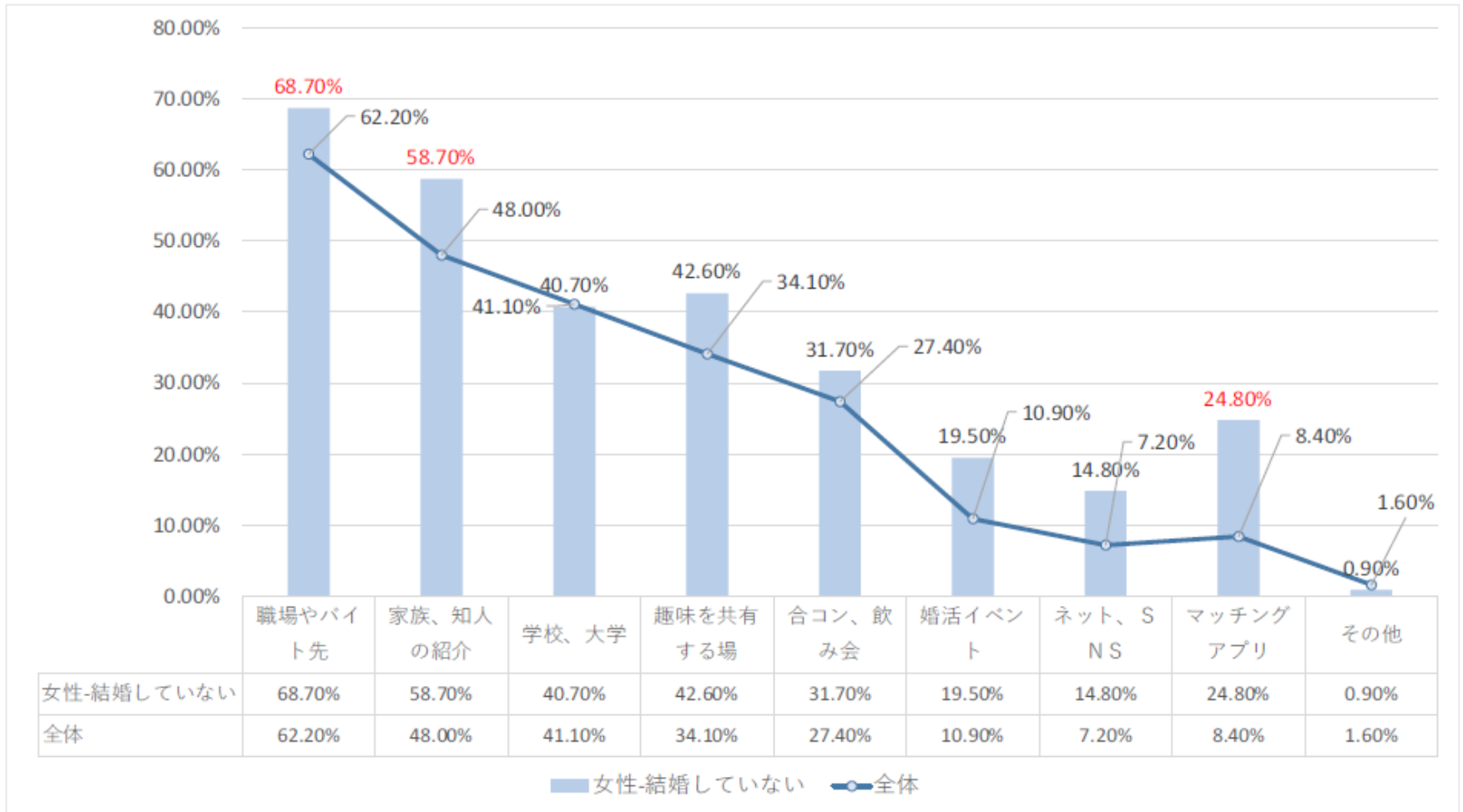


		度数	%	有効%
有効	とても結婚したい	180	2.1%	13.0%
	できれば結婚したい	321	3.8%	23.2%
	将来は結婚したいが今は考えていない	209	2.4%	15.1%
	あまり結婚したくない	176	2.1%	12.7%
	結婚したくない	264	3.1%	19.0%
	わからない	236	2.8%	17.0%
	合計	1386	16.2%	100.0%
欠損値	無回答	0	0.0%	
	非該当	7170	83.8%	
合計		8556	100.00%	

県民アンケートの概要について

Qあなたにとって、結婚に繋がると思う出会いのシーンは、次のうちどれですか×女性×未婚

- 未婚の女性は、結婚に繋がると思う出会いのシーンについて、「職場やバイト先」と答えた方が最も多かった。また、「家族、知人の紹介」や「マッチングアプリ」への回答が全体の回答と比較して多い傾向にある。



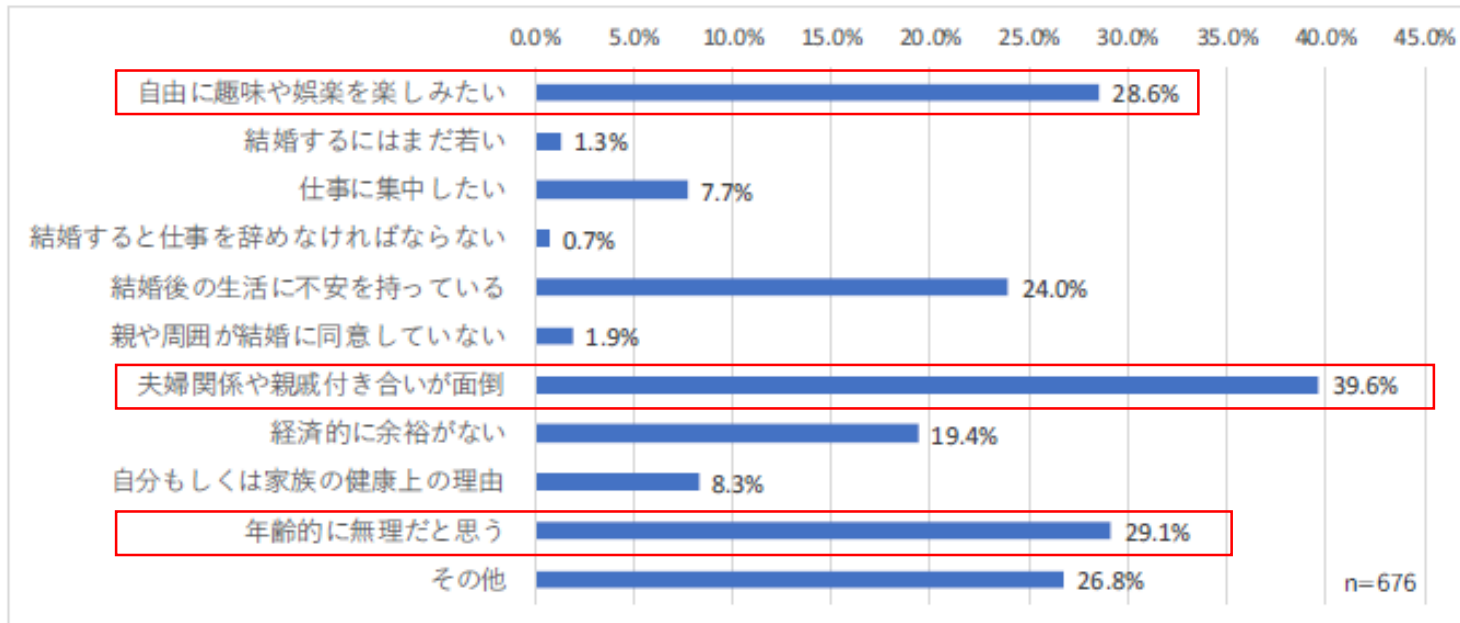
Q1性別（女性）・Q12婚姻状況×Q22結婚に繋がる出会いのシーン「家族、知人の紹介」（※表は一部抜粋） $\chi^2=21.5$ 自由度=1 $p<0.001$

Q1性別（女性）・Q12婚姻状況×Q22結婚に繋がる出会いのシーン「マッチングアプリ」（※表は一部抜粋） $\chi^2=198.1$ 自由度=1 $p<0.001$

県民アンケートの概要について

Q「あまり結婚したくない」「結婚したくない」「わからない」と思う理由は、次のうちどれですか？(いくつでも可)。

- 未婚の回答者に結婚したくない理由を尋ねると「夫婦関係や親戚付き合いが面倒」(39.6%)が最も多く、次いで「年齢的に無理だと思ふ」(29.1%)、「自由に趣味や娯楽を楽しみたい」(28.6%)が上位3つとなった。

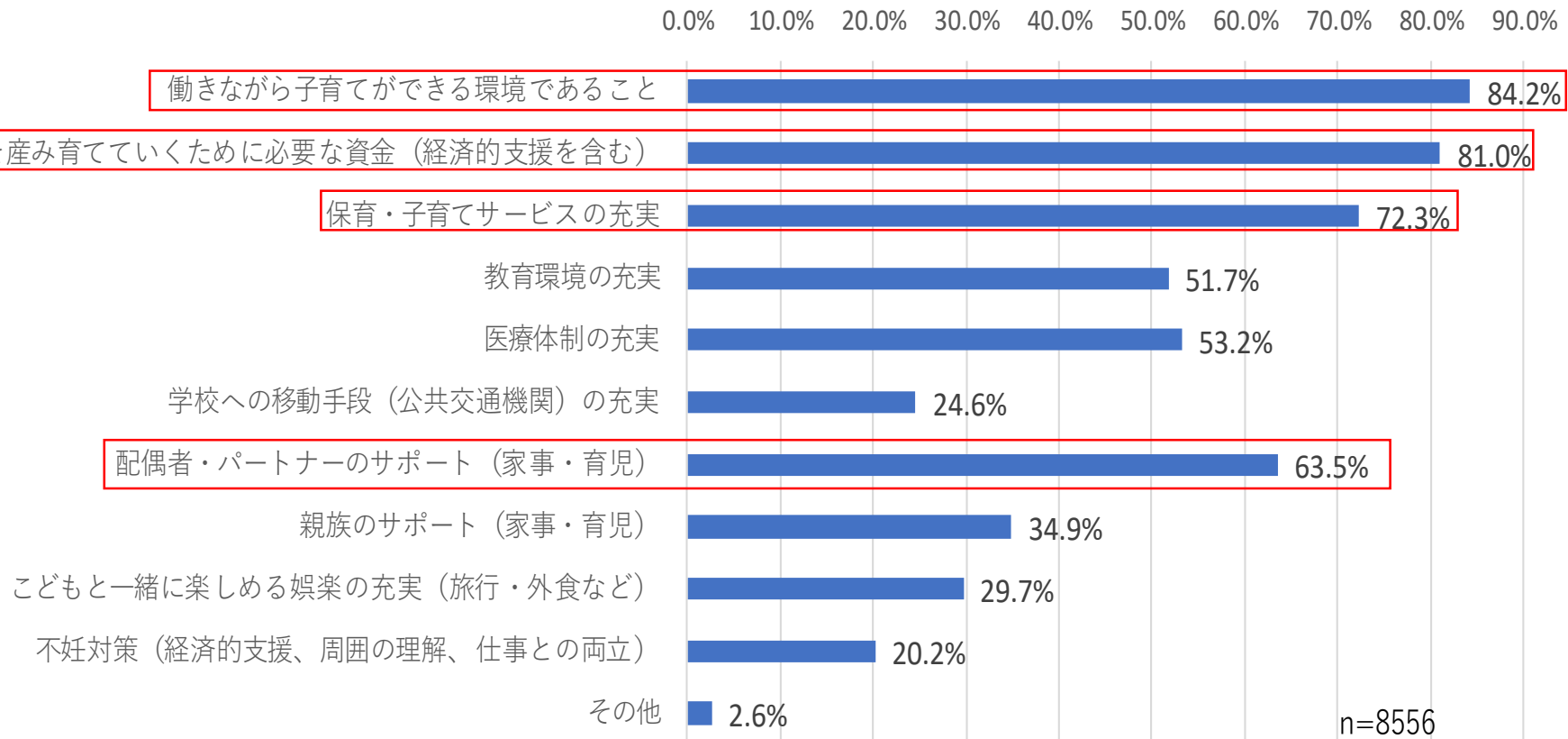


		有効%		
		yes	no	合計
1	自由に趣味や娯楽を楽しみたい	28.6%	71.4%	100.0%
2	結婚するにはまだ若い	1.3%	98.7%	100.0%
3	仕事に集中したい	7.7%	92.3%	100.0%
4	結婚すると仕事を辞めなければならない	0.7%	99.3%	100.0%
5	結婚後の生活に不安を持っている	24.0%	76.0%	100.0%
6	親や周囲が結婚に同意していない	1.9%	98.1%	100.0%
7	夫婦関係や親戚付き合いが面倒	39.6%	60.4%	100.0%
8	経済的に余裕がない	19.4%	80.6%	100.0%
9	自分もしくは家族の健康上の理由	8.3%	91.7%	100.0%
10	年齢的に無理だと思ふ	29.1%	70.9%	100.0%
11	その他	26.8%	73.2%	100.0%

県民アンケートの概要について

Qあなたにとって、子育て支援で必要なもの※最大7つ選択可

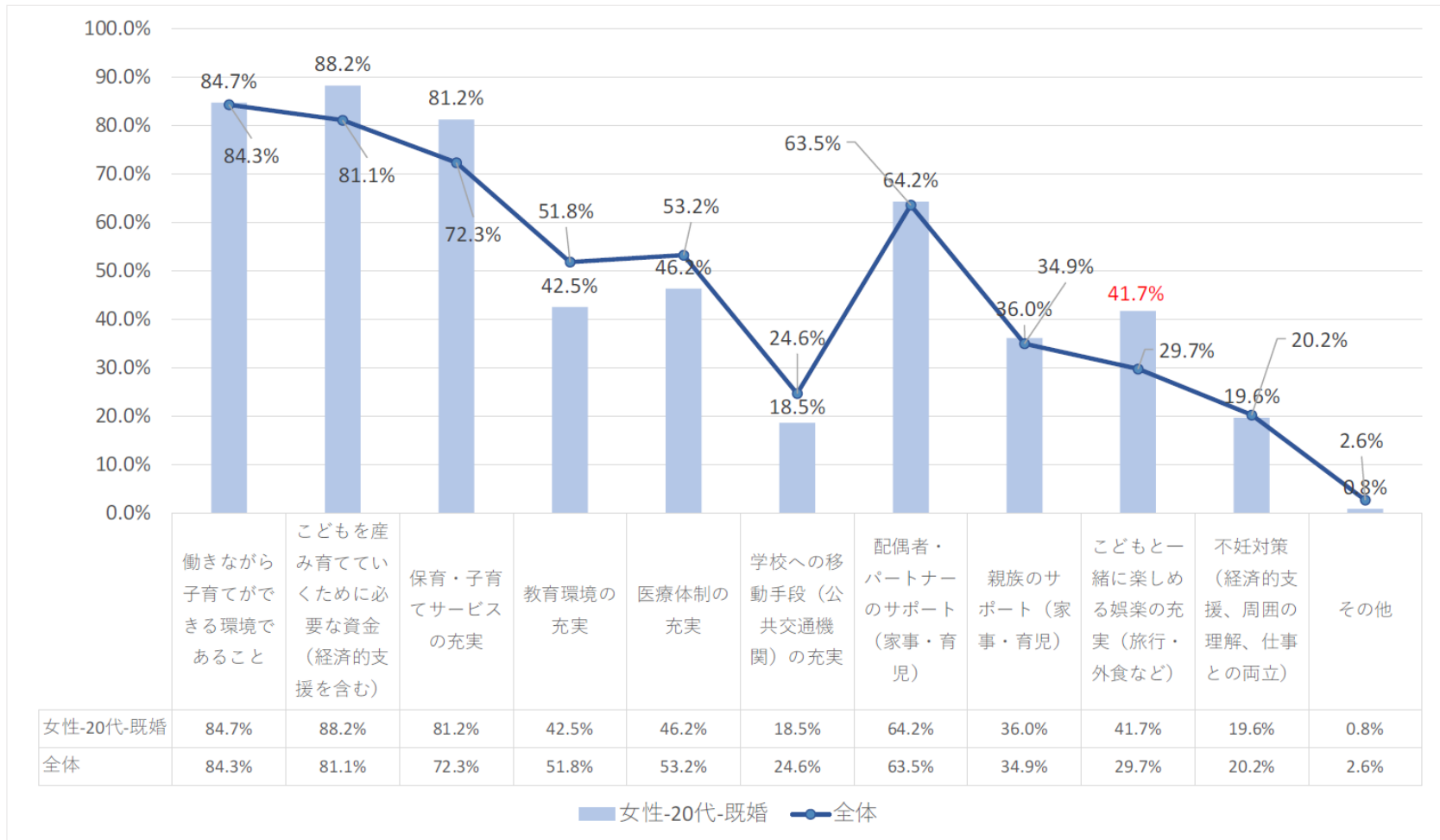
- 子育て支援で必要なものを尋ねたところ「働きながら子育てができる環境であること」(84.2%)が最も多く、次いで「こどもを産み育てていくために必要な資金(経済的支援を含む)」(81.0%)、「保育・子育てサービスの充実」(72.3%)、「配偶者・パートナーのサポート(家事・育児)」(63.5%)であった。



県民アンケートの概要について

Qあなたにとって、子育て支援で必要なもの×女性・20代×既婚

- 20代の既婚女性は、必要な子育て支援として「旅行・外食など、こどもと一緒に楽しめる娯楽の充実」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。

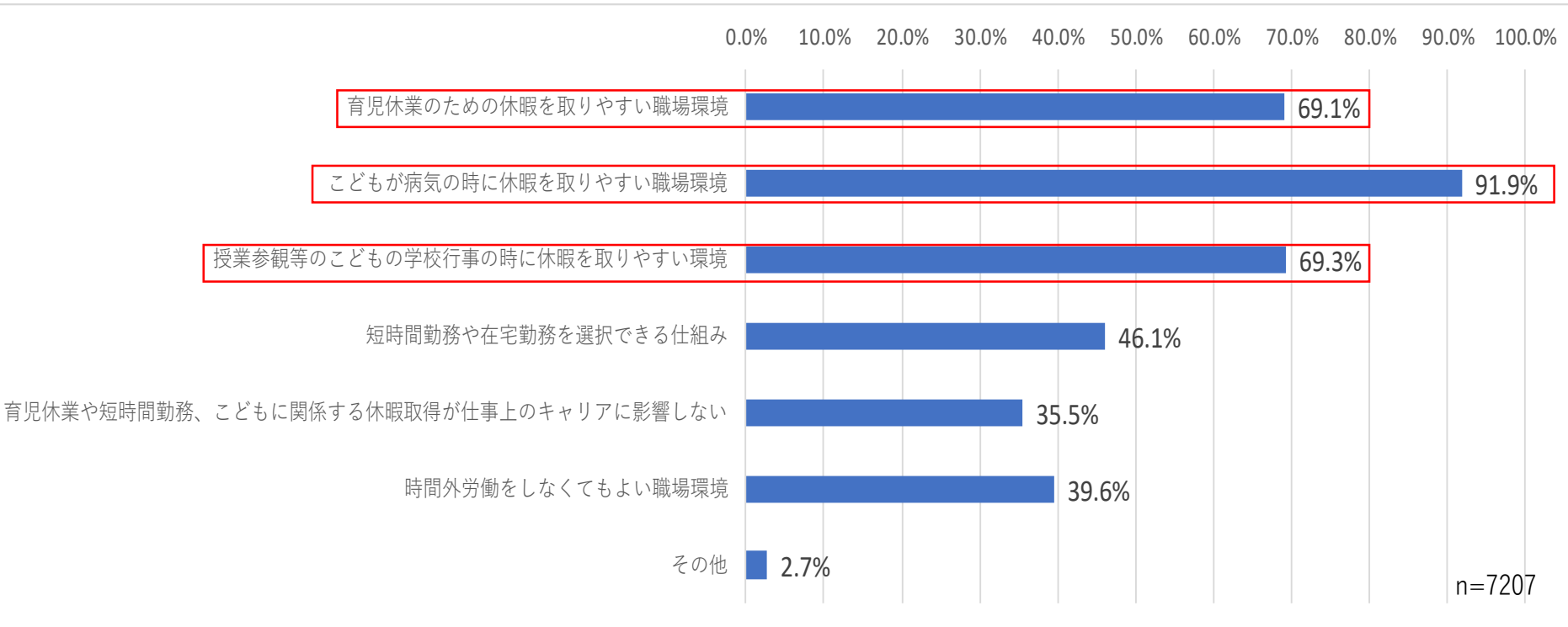


Q1性別（女性）・Q2年齢（20代）・Q12婚姻状況×Q26必要な子育て支援「こどもと一緒に楽しめる娯楽の充実（旅行・外食など）」（※表は一部抜粋）
 $\chi^2=16.3$ 自由度=1 $p<0.001$

県民アンケートの概要について

Q働きながら子育てができる環境の充実のために必要な支援は？※最大4つ選択可

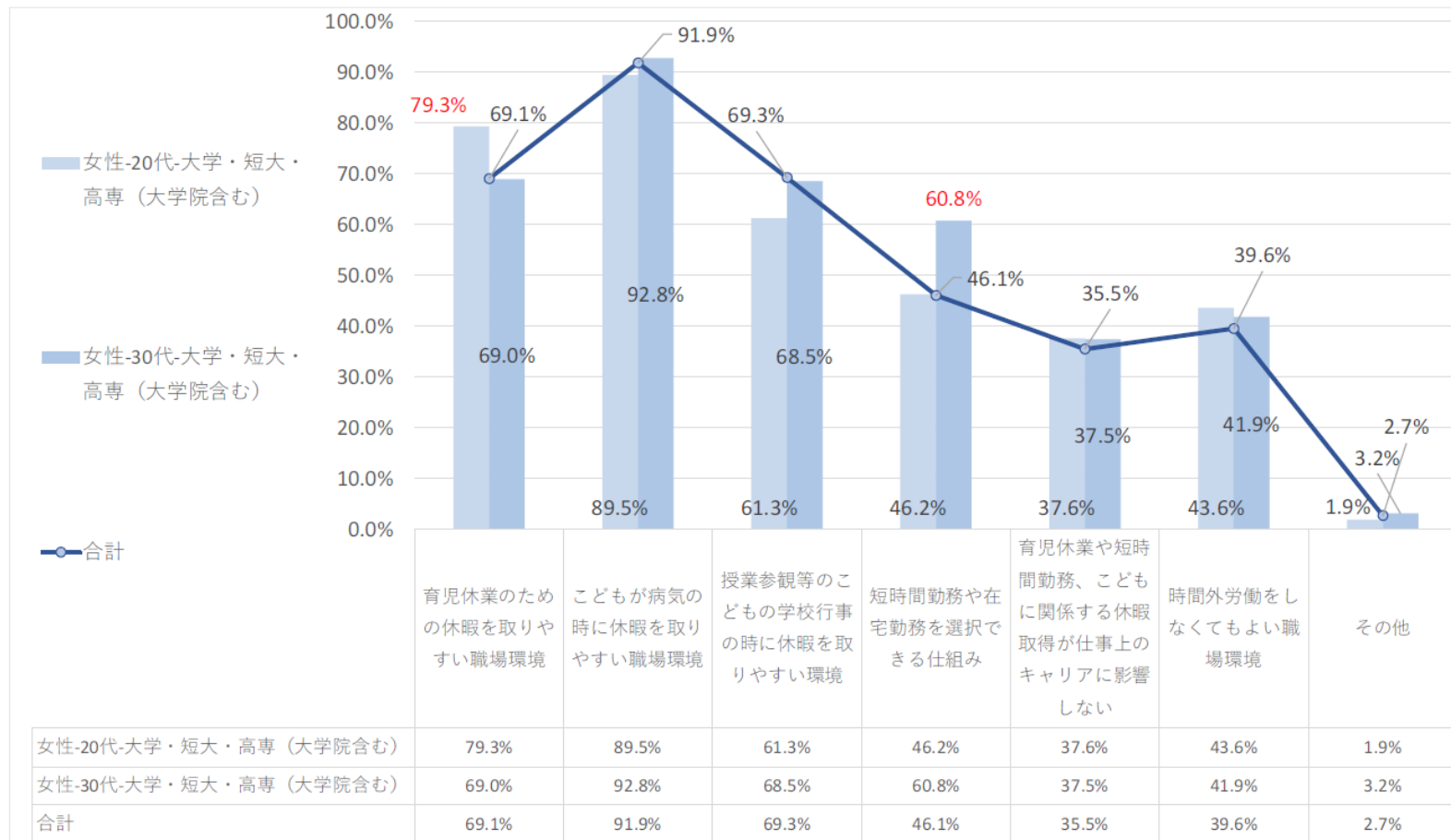
- 働きながら子育てができる環境の充実に必要な支援では、「こどもが病気の時に休暇を取りやすい職場環境」(91.9%)が最も多く、次いで「授業参観等のこどもの学校行事の時に休暇を取りやすい環境」(69.3%)、「育児休業のための休暇を取りやすい職場環境」(69.1%)であった。



県民アンケートの概要について

Q働きながら子育てができる環境の充実のために必要な支援×女性×20代or30代×大卒・短大・高専(大学院含む)卒

- 20代の大学・短大・高専(大学院含む)卒の女性は、働きながら子育てをする環境充実のために必要な支援として「育児休業のための休暇を取りやすい職場環境」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。30代の同女性は「短時間勤務や在宅勤務を選択できる仕組み」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。



Q1性別(女性)・Q2年齢(20代)・Q3学歴×Q27環境充実のために必要な支援「育児休業のための休暇を取りやすい職場環境」(※表は一部抜粋)

$\chi^2=13.8$ 自由度=4 $p<0.01$

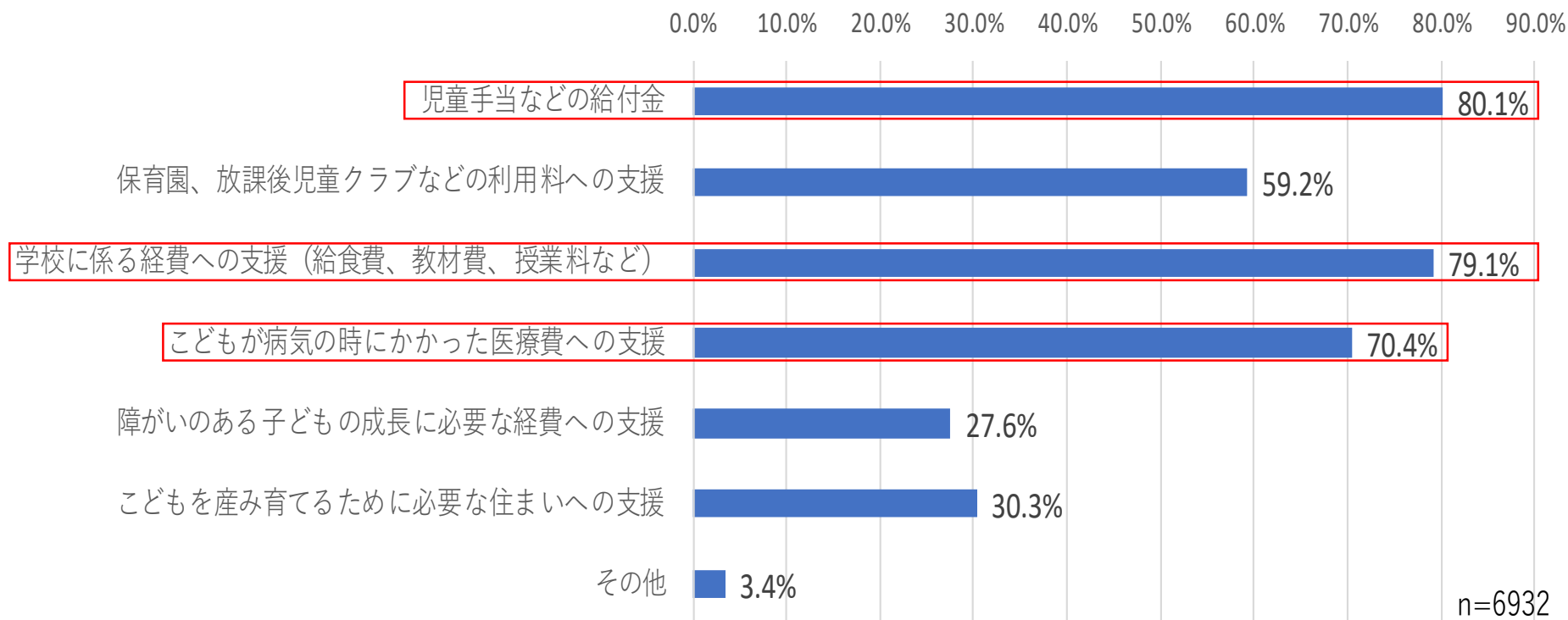
Q1性別(女性)・Q2年齢(30代)・Q3学歴×Q27環境充実のために必要な支援「短時間勤務や在宅勤務を選択できる仕組み」(※表は一部抜粋)

$\chi^2=35.6$ 自由度=4 $p<0.001$

県民アンケートの概要について

Q子どもを産み育てていくために必要な資金(経済的支援を含む)※最大4つ選択可

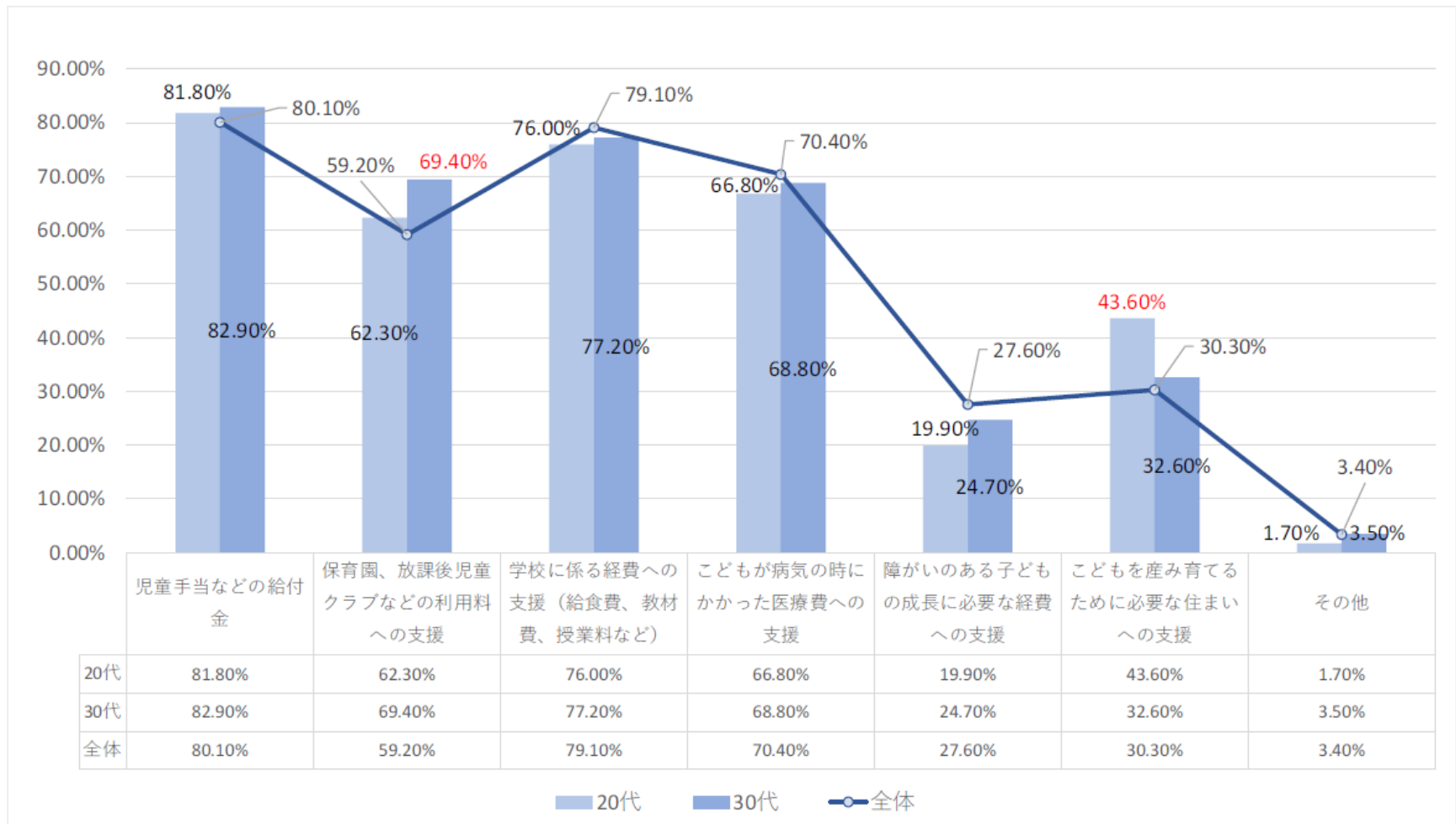
- 子どもを産み育てていくために必要な資金支援では、「児童手当などの給付金」(80.1%)が最も多く、次いで「学校に係る経費への支援(給食費、教材費、授業料など)」(79.1%)、「子どもが病気の時にかかった医療費への支援」(70.4%)であった。この傾向は学生・生徒も同様である。



県民アンケートの概要について

Q子どもを産み育てていくために必要な資金(経済的支援を含む)×20代、30代

- 子どもを産み育てていくために必要な資金として20代、30代は、「児童手当などの給付金」を最も多く回答。また、20代では「住まいへの支援」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。30代は「保育園、放課後児童クラブなどの利用料への支援」への回答が全体の回答と比較して多い傾向。



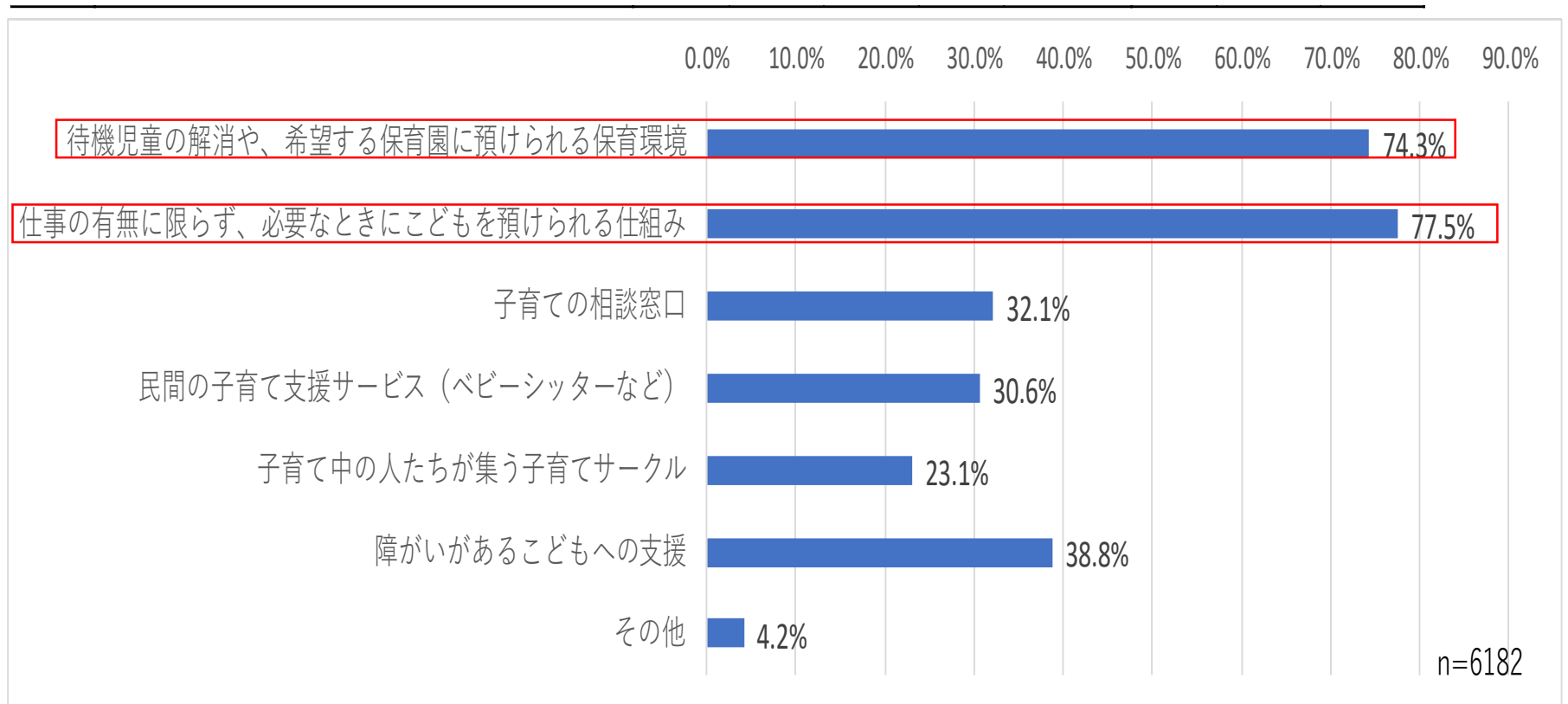
Q2年齢×Q28必要な資金「保育園、放課後児童クラブなどの利用料への支援」(※表は一部抜粋) $\chi^2=199.7$ 自由度=4 $p<0.001$

Q2年齢×Q28必要な資金「子どもを産み育てるために必要な住まいへの支援」(※表は一部抜粋) $\chi^2=98.7$ 自由度=4 $p<0.001$

県民アンケートの概要について

Q保育・子育てサービスの充実のために必要な支援※最大4つ選択可

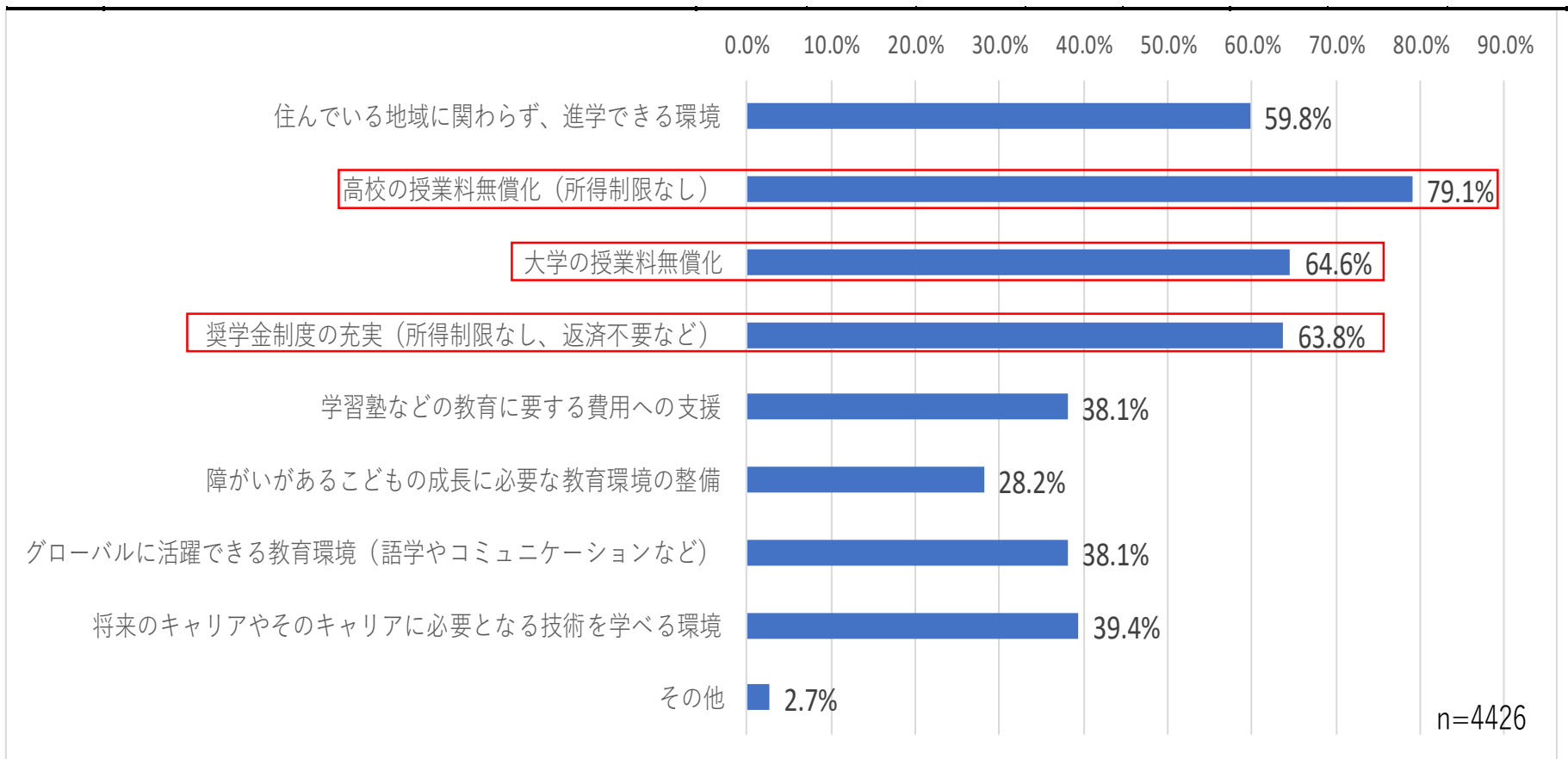
- 保育・子育てサービスの充実のために必要な支援では、「仕事の有無に限らず、必要なときにこどもを預けられる仕組み」(77.5%)が最も多く、次いで「待機児童の解消や、希望する保育園に預けられる保育環境」(74.3%)となっている。



県民アンケートの概要について

Q教育環境の充実のために必要な支援は※最大5つ選択可

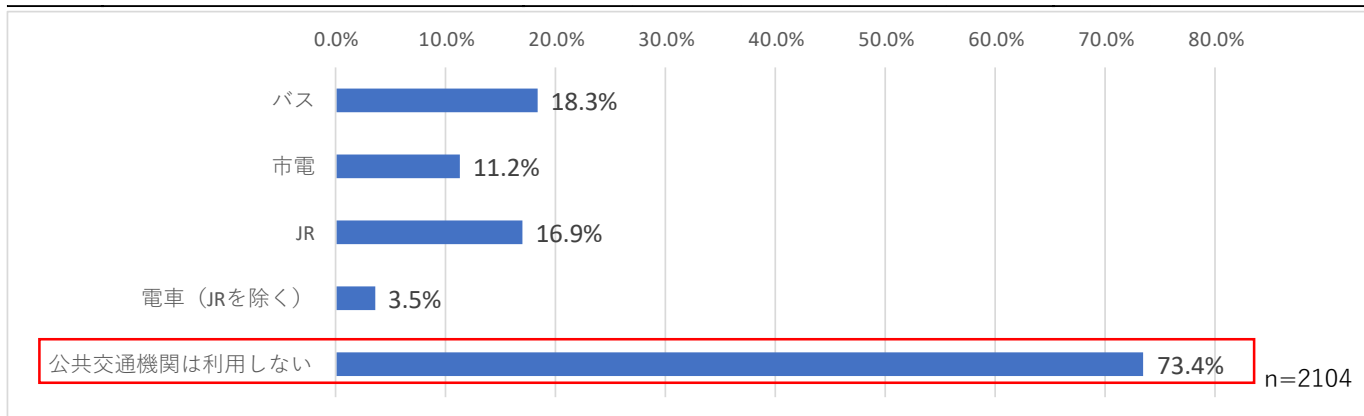
- 教育環境の充実のために必要な支援では、「高校の授業料無償化(所得制限なし)」(79.1%)が最も多く、次いで「大学の授業料無償化」(64.6%)、「奨学金制度の充実(所得制限なし、返済不要など)」(63.8%)が上位3つとなった。
- 高校の授業料無償化は学生・生徒での回答でも共通しているが、社会人は学生・生徒と異なり、大学の学費の無償化や奨学金制度の充実も回答が多い。



県民アンケートの概要について

- よく利用する交通機関を尋ねたところ、「交通機関を利用しない」が73.4%と最も多く、バス・市電・JR等を利用すると回答した人の割合は全体の2割にも満たなかった。
- また、子育て中に不便を感じる交通機関は、「バス」が59.7%と最も多く、次いで「JR」が34.7%、「市電」が31.4%という結果であった。

Qよく利用する交通機関



Qあなたが、もしくは子育ての方が不便を感じる交通機関

